

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）：人文社会科学部

人文社会科学部では、教養教育を重視しつつ「総合化と専門深化」の教育理念に基づき、現代社会の諸問題を総合的観点から理解する能力と人間・文化・社会・環境に関する専門的知識・能力を有し、地域社会および国際社会に実践を通して貢献できる人材の養成を目的としており、所定の教育課程を学修し、以下に示す能力を修得した者に「学士（総合科学）」の学位を授与する。

（知識・理解）

1. 教養教育により幅広い分野の知識を修得している。
2. 人間・文化・社会・環境について、教養教育で得た基礎的知識・技能等を土台にし、専門的な知識と理解を有するとともに、総合的・学際的な広い視野を有している。

（思考・判断）

3. 総合的な学修を活かし、変化が著しく複雑化する現代社会に対応できる柔軟な思考力と的確な判断力を有している。

（技能・表現）

4. グローバル化が進む社会において、多様な考え方、異質なものを理解するとともに、自らの見解・成果を的確に表現し、発信できる高いコミュニケーション能力を有している。

（関心・意欲・態度）

5. 地域社会・国際社会の諸課題に実践を通して取り組み、貢献しようとする積極的姿勢と高い倫理性を有している。

【行動科学専修プログラム】

行動科学専修プログラムでは、人間行動を個人的側面と社会的側面から総合的に理解し、情報科学的素養と人間学的素養をもって、地域住民の心身の問題、家族の問題、生きがいの問題など、人々が抱える多様な問題に適切に対処できる人材の養成を目的としており、以下に示す能力を修得した者を主専修プログラム修了者とみなす。

（知識・理解）

1. 心理学、社会学を中心とした行動科学的なアプローチから得られた人間行動に関する知識を幅広く身につけており、人間行動を総合的・多元的に理解することができる。

（思考・判断）

2. 人間行動をめぐる諸問題に適切に対処するための情報分析能力やコミュニケーション能力を身につけている。
3. 人間行動に関する専門的な知識等を活用して、現実の問題解決に向けてアプローチでき、地域社会に積極的な提案を行うことができる。

（技能・表現）

4. 現代社会に生きる人々が新たに直面する事象を、自らの力で理解し判断する自発的課題探求力を身につけている。
5. 発表や討論を通じてのコミュニケーションやプレゼンテーションのスキルを修得している。

6. 経験（実習・実験）を通して、チームワークやリーダーシップなどの集団活動場面におけるスキルを修得している。

（関心・意欲）

7. 専門分野の学問内容、最新の研究成果、動向等について興味・関心を持っている。

8. 専門性を活かして、社会に参画する意欲を持っている。

（態度）

9. 人間に対する深い理解と広い視野に基づく学際的・総合的な課題探求能力を修得し、現代社会の様々な課題を全体的に把握し、それらの課題に適切かつ柔軟に対処できる。

【スポーツ科学専修プログラム】

スポーツ科学専修プログラムでは、スポーツ科学の基礎的な知識を踏まえ、多様な対象者に適切な運動やスポーツの処方や指導ができる資質を身につけ、スポーツを通じた地域づくりや地域住民の心身の健康づくりに適切に対処できる人材の養成を目的としており、以下に示す能力を修得した者を主専修プログラム修了者とみなす。

（知識・理解）

1. スポーツ科学の基礎的な知識を理解している。

2. 健康づくりに関する知識とその意義を理解している。

（思考・判断）

3. スポーツや健康に関する地域の多様なニーズやシーズを察知でき、適切な対応策が講じられる。

（技能・表現）

4. 対象に応じた適切な運動処方を計画し、具体的な実践指導ができる。

5. 地域課題を探索するために、社会調査等を利用した方法が活用できる。

（関心・意欲）

6. 健康やスポーツによる地域の活性化や地域づくりに関心を持ち、自ら地域に出て実践的な活動をする意欲がある。

（態度）

7. 専門性を生かし、グローバルな視野から地域貢献に積極的に関わる態度を身につけている。

【現代文化専修プログラム】

現代文化専修プログラムでは、人間の営みの総体としての文化を近代モダニズムを含む現代的な視点から捉え、文化現象の生成・発展・変容とともに流動化する現代社会を把握し、文化の継承や創成を通じて地域社会の活性化に寄与できる人材の養成を目的としており、以下に示す能力を修得した者を専修プログラム修了者とみなす。

（知識・理解）

1. 人間と文化に関して幅広い知識と素養を有している。

2. 国際的な視野に立って異文化を理解できる。

3. 地域社会の諸問題を歴史や思想などの根源的原理から考察できる。

4. 現代的状況の下で文化がどのように変容していくかを理解できる。

(思考・判断)

5. 地域社会の現況把握や遭遇する諸課題に対して、多角的な視点から対象を把握できる。
6. グローバルな観点が不可欠な現代的諸課題に対して、柔軟な思考で最適解を導き出せる判断力を有している。

(技能・表現)

7. 対象に応じた認識手段や分析手法を有している。
8. 企画・立案した内容や自身の見解等を的確に説明し発信できる。

(関心・意欲・態度)

9. 未知の事象に対しても積極的に対応し得る好奇心や意欲を持っている。
10. 地域社会の活性化等に主体的に関わろうとする態度を有している。

【異文化間コミュニティ専修プログラム】

異文化間コミュニティ専修プログラムでは、性別、国籍、言語・民族性などの違いによってマイノリティ（少数者）が生み出されるしくみ、社会的排除の現状と歴史的背景を学び、これらの知識と当事者へのエンパワーメント・スキルを身につけ、社会的排除の乗り越えを目指す地域の創生に貢献できる人材の養成を目的としており、以下に示す能力を修得した者を主専修プログラム修了者とみなす。

(知識・理解)

1. マイノリティが生み出されるしくみについて、総合的・多角的に理解する能力を有している。
2. 社会的排除の現状・歴史的背景・乗り越えをめぐる模索について、人文・社会諸科学の幅広い知識にもとづいて理解する能力を有している。

(思考・判断)

3. 性別、国籍、言語・民族性などの違いによって、自らがどのような社会的位置づけに置かれているのかを、人文・社会科学の諸議論をふまえて思考する能力を有している。
4. 性別、国籍、言語・民族性などの違いによって、自らにどのような視座の偏りが生じるのかについて、自覚的な思考ができる能力を有している。

(技能・表現)

5. 社会的排除当事者へのエンパワーメント・スキルのうち、基礎的な技能を身につけている。
6. 社会的排除当事者のヴァルネラビリティ（社会的立場の弱さ）を考慮に入れた、行動や表現ができる能力を有している。

(関心・意欲)

7. 多様なコミュニケーション手段を積極的に学び、国内のみならず国際的な異文化間コミュニティ形成に対する関心を有している。

(態度)

8. 社会的排除の乗り越えに対して、地域の一員として主体的に関わろうとする態度を持っている。

【歴史専修プログラム】

歴史専修プログラムでは、日本・アジア・西洋の過去を横断的に学び、現代の諸問題の歴史的背景を理解するとともに、過去との対話を通して現代を相対化して捉える能力を身につけ、流動性や越境性を増す現代社会で活躍できる、歴史的視座と国際的視野、および比較の視点を有する人材の養成を目的としており、以下に示す能力を修得した者を主専修プログラム修了者とみなす。

(知識・理解)

1. 人間と文化に関する幅広い知識と教養を有し、国際的な視野に立って異文化を理解することができる。
2. 日本・アジア・西洋各国の歴史に関する横断的、基礎的な知識を有し、現代の諸問題の歴史的背景を理解している。

(思考・判断)

3. 日本・アジア・西洋各国の政治・経済・社会・文化・思想などについて歴史的視座から検討し、また国際的視野から比較することを通して、現代の諸地域の政治・経済・社会・文化・思想などを相対化し、問い直すことのできる能力を身につけている。

(技能・表現)

4. 文献資料あるいは非文献資料を適切に取り扱い、読み解く能力を身につけている。また、従来の研究成果を批判的に検討し、自らの見解を論理的に組み立て、資料に基づいて適切に発表することができる。

(関心・意欲・態度)

5. 日本・アジア・西洋各国の歴史に関する諸問題について自らの課題を見出し、主体的に探究する意欲を持っている。

【芸術文化専修プログラム】

芸術文化専修プログラムでは、社会における文化・芸術のあり方に関する総合的な学修を基礎として、生涯教育活動の中核となる芸術文化の実践によって、地域における文化の活性化、および地域からの文化発信に貢献できる人材の養成を目的としており、以下に示す能力を修得した者を主専修プログラム修了者とみなす。

(知識・理解)

1. 人間と文化に関して幅広い知識と教養を有している。
2. 芸術文化の諸領域に関して総合的な素養を身に付けている。
3. 現代的状況や地域社会の下で、多様な視点から芸術文化を理解することができる。
4. 芸術文化におけるアート・デザイン・クラフト・理論の諸領域のいずれかに関して深い知識を有している。

(思考・判断)

5. 芸術文化について、作品鑑賞や文献を使って自主的に学習し思考することができる。
6. 探求する課題について論理的に思考・判断することができる。

(技能・表現)

7. 芸術文化におけるアート・デザイン・クラフト・理論の諸領域のいずれかに関して、実践的あるいは論理的な技能を身に付け、作品あるいは文章によって表現することができる。
8. 探求する課題について、制作あるいは文章によって自分の考えを展開し、表現することができる。

できる。

(関心・意欲)

9. 芸術文化に関する関心を持ち、自ら進んで学ぶ意欲を有している。

(態度)

10. 強い責任感を持って、専門分野を社会に活かそうとする態度を身に付けている。

【英語圏文化専修プログラム】

英語圏文化専修プログラムでは、英語圏の文化・文学・言語について深い理解と英語の高度なコミュニケーション能力を通して、グローバル社会で活躍できる人材を養成することを目的としており、以下に示す能力を修得した者を主専修プログラム修了者とみなす。

(知識・理解)

1. 人間と文化に関して幅広い知識と教養を有している。
2. 国際的な視野に立って異文化を理解することができる。
3. 英語圏の文化・文学・言語・英語習得の諸分野に関して総合的な素養を身に付けている。
4. 英語圏の文化・文学・言語・英語習得の諸分野のいずれかに関して深い知識を有している。

(思考・判断)

5. 英語圏の文化・文学・言語について、英語の資料や文献を使って自主的に学習し思考することができる。
6. 探求する課題について論理的に思考・判断することができる。

(技能・表現)

7. 実践的な英語コミュニケーション能力を身に付け、英語圏の人と英語で交流することができる。
8. 探求する課題について、論理的な文章によって自分の考えを表すことができる。

(関心・意欲)

9. 英語圏の文化と言語に関する関心を持ち、自ら進んで学ぶ意欲を有している。

(態度)

10. 強い責任感を持って、専門分野で得た知識や技能を社会に活かそうとする態度を身に付けている。

【ヨーロッパ語圏文化専修プログラム】

ヨーロッパ語圏文化専修プログラムでは、ヨーロッパの諸言語（ドイツ語、フランス語、ロシア語）のコミュニケーション能力を養成するとともに、ヨーロッパ諸国の文化的特徴・社会事情の理解、文学作品・作家についての理解、ヨーロッパ諸言語の言語学的分析方法の習得などを通して、多文化・多言語化するグローバル化社会で活躍できる人材を養成することを目的としており、以下に示す能力を修得した者を主専修プログラム修了者とみなす。

(知識・理解)

1. 人間と文化に関して幅広い知識と教養を有している。
2. 国際的な視野に立って異文化を理解することができる。
3. ヨーロッパ諸国の言語・文化の諸相を、その歴史的背景や社会的背景も踏まえながら理解

できる能力を有している。

4. ヨーロッパ諸国の言語・文化・文学の諸分野のいずれかに関して深い知識を有している。
(思考・判断)
5. ヨーロッパ社会における諸問題を探求するための広い視野に基づいた思考力と社会的背景を踏まえた判断力を有している。
6. 探求する課題について論理的に思考・判断することができる。
(技能・表現)
7. グローバル化社会に対応できるコミュニケーション手段として個別言語を用いて発信できる能力を有している。
8. 探求する課題について、論理的な文章によって自分の考えを表すことができる。
(関心・意欲)
9. ヨーロッパの諸言語、文化に関する関心を持ち、自ら進んで学ぶ意欲を有している。
(態度)
10. 多様な文化を積極的に学修して多文化社会のあり方について主体的に探求する態度を有している。

【アジア圏文化専修プログラム】

アジア圏文化専修プログラムでは、日本および中国を中心としたアジア地域の歴史的文化的特徴・社会事情の理解、文学作品・作家についての理解、日本語および中国語の言語学的分析方法の習得などを通して、多文化・多言語化するグローバル化社会で活躍できる人材を養成することを目的としており、以下に示す能力を修得した者を主専修プログラム修了者とみなす。

(知識・理解)

1. 人間と文化に関して幅広い知識と教養を有している。
2. 国際的な視野に立って異文化を理解することができる。
3. アジア圏の言語・文化の諸相を、その歴史的背景や社会的背景も踏まえながら理解できる能力を有している。
4. アジア圏の言語・文化・文学の諸分野のいずれかに関して深い知識を有している。
(思考・判断)
5. アジア圏における諸問題を探求するための広い視野に基づいた思考力と社会的背景を踏まえた判断力を有している。
6. 探求する課題について論理的に思考・判断することができる。
(技能・表現)
7. グローバル化社会に対応できるコミュニケーション手段として個別言語を用いて発信できる能力を有している。
8. 探求する課題について、論理的な文章によって自分の考えを表すことができる。
(関心・意欲)
9. アジア圏の諸言語、文化に関する関心を持ち、自ら進んで学ぶ意欲を有している。
(態度)
10. 多様な文化を積極的に学修して多文化社会のあり方について主体的に探求する態度を有している。

【政策法務専修プログラム】

政策法務専修プログラムは、法学全体、とくに公法、刑事法、政治学などに関する学修に基づき、学部・課程および他専修プログラムにおける学修で得られた知見と合わせて、公共政策形成の観点から地域創生・地域マネジメントの課題に取り組むことのできる人材の養成を目的とする。この目的の下、本プログラムの教育課程は、公共政策形成に必要な専門的知識および法学的思考様式をもって、実際の政策立案・評価を効果的に行うことのできる能力の修得を目標とし、以下に示す条件を満たした者を主専修プログラム修了者とみなす。

(知識・理解)

1. 法・経済・環境に関する基礎的な知識を修得している。
2. 地域社会が抱える現実的な法的・政治的課題の内容や意義、歴史的経緯についての的確に認識している。

(思考・判断)

3. 法と人間・社会のあり方について、相互の複雑な連関を踏まえて理解するための法学的思考様式を身につけている。
4. 法学的思考様式を用いて現実の社会的課題に関する判断を下す力を有している。

(技能・表現)

5. 法学全体に関する基礎的な観点および公法、刑事法、政治学を中心とする専門的な観点から、地域社会が抱える課題につき、法学的思考様式を用いて政策立案を行い、それを論理的かつ的確に説明するスキルを身につけている。
6. 様々な集団の合意形成を図ることができる柔軟なコミュニケーション能力やプレゼンテーションのスキルを身につけている。

(関心・意欲)

7. 地域社会が抱える課題の解決や地域創生・地域マネジメントに強い関心を持っている。
8. 本専修プログラムで修得した専門的視点を活かし、地域の問題解決のために社会に参画する意欲を持っている。

(態度)

9. 中立公正な立場から高い倫理性を持って、専門分野を社会貢献に活かそうとする態度を身につけている。

【企業法務専修プログラム】

企業法務専修プログラムは、法学全体、とくに民法（財産法）、商法、労働法などに関する学修に基づき、学部・課程および他専修プログラムにおける学修で得られた知見と合わせて、企業法務の観点から地域創生・地域マネジメントの課題に取り組むことのできる人材の養成を目的とする。この目的の下、本プログラムの教育課程は、企業法務に必要な専門的知識および法学的思考様式をもって、地域産業が抱える諸問題の解決を実行ないし提言することのできる能力の修得を目標とし、以下に示す条件を満たした者を主専修プログラム修了者とみなす。

(知識・理解)

1. 法・経済・環境に関する基礎的な知識を修得している。
2. 地域産業が抱える現実的な法的（とくに私法に関する）課題の内容や意義、歴史的経緯に

についての確に認識している。

(思考・判断)

3. 法と人間・社会のあり方について、相互の複雑な連関を踏まえて理解するための法学的思考様式を身につけている。

4. 法学的思考様式を用いて現実の社会的課題に関する判断を下す力を有している。

(技能・表現)

5. 法学全体に関する基礎的な観点および民法（財産法）、商法、労働法を中心とする専門的な観点から、地域産業が抱える課題につき、法学的思考様式を用いて政策立案を行い、それを論理的かつ的確に説明するスキルを身につけている。

6. 様々な集団の合意形成を図ることができる柔軟なコミュニケーション能力やプレゼンテーションのスキルを身につけている。

(関心・意欲)

7. 地域産業が抱える課題の解決や地域創生・地域マネジメントに強い関心を持っている。

8. 本専修プログラムで修得した専門的視点を活かし、地域産業の問題解決のために社会に参画する意欲を持っている。

(態度)

9. 中立公正な立場から高い倫理性を持って、専門分野を社会貢献に活かそうとする態度を身につけている。

【地域社会経済専修プログラム】

地域社会経済専修プログラムでは、経済・法・環境分野の総合的学修を基礎に、理論経済学・財政学・農業経済論といった経済学の専門的学修を通じて、地域の経済、産業、行政などの政策課題を学修することによって、地域経済の創生・再生を担うことができる人材の養成を目的としており、以下に示す能力を修得した者を主専修プログラム修了者とみなす。

(知識・理解)

1. 経済・法・環境に関する基礎的な知識を幅広く身につけている。

2. 地域経済のしくみを総合的に理解するための専門的な知識を修得している。

(思考・判断)

3. 経済と人間・社会のあり方について、相互の複雑な連関を踏まえて理解する経済学的素養を身につけている。

4. 経済学をはじめとした専門的知識を活用し、地域経済のしくみとその課題を総合的に思考することができる。

(技能・表現)

5. 地域経済の現状や課題を関連資料・データに基づいて理論的・実証的に分析・評価し、それらに基づく政策的判断ができる。

6. 様々な集団の合意形成を図ることができる柔軟なコミュニケーション能力やプレゼンテーションのスキルを身につけている。

(関心・意欲)

7. 地域経済が抱えるさまざまな諸問題や経済現象に強い関心を持っている。

8. 経済学をはじめとする専門的視点を活かして、地域経済の課題に主体的・実践的に取り組

む意欲を持っている。

(態度)

9. 中立公正な立場から高い倫理性を持って、専門分野を社会貢献に活かそうとする態度を身につけている。

【地域社会連携専修プログラム】

地域社会連携専修プログラムでは、経済・法・環境分野の総合的学修を基礎に、政治経済学・経営学総論・農業経済論など経済学ならびに経営学の専門的学修を通じて、地域の現場における企業・産業、労働、生活・福祉をめぐる諸問題を学ぶことによって、地域が抱える諸課題を総合的な観点から解決できる人材の養成を目的としており、以下に示す能力を修得した者を主専修プログラム修了者とみなす。

(知識・理解)

1. 経済・法・環境に関する基礎的な知識を幅広く身につけている。
2. 地域社会や産業のしくみを総合的に理解するための専門的な知識を修得している。

(思考・判断)

3. 経済と人間・社会のあり方について、相互の複雑な連関を踏まえて理解する経済学的素養を身につけている。
4. 経済学をはじめとした専門的知識を活用し、地域社会や産業のしくみとその課題を総合的に思考することができる。

(技能・表現)

5. 地域社会や産業が抱える諸問題を関連資料・データに基づいて理論的・実証的に分析・評価し、それらに基づく政策的判断ができる。
6. 様々な集団の合意形成を図ることができる柔軟なコミュニケーション能力やプレゼンテーションのスキルを身につけている。

(関心・意欲)

7. 地域社会や産業が抱えるさまざまな諸問題や経済現象に強い関心を持っている。
8. 経済学をはじめとする専門的視点を活かして、地域社会や産業の課題に主体的・実践的に取り組む意欲を持っている。

(態度)

9. 中立公正な立場から高い倫理性を持って、専門分野を社会貢献に活かそうとする態度を身につけている。

【環境共生専修プログラム】

環境共生専修プログラムでは、環境学・法学・経済学の総合的学修を基礎に、環境学の専門的学修を環境政策・環境マネジメントの実践に活かし、持続可能な共生社会の構築に貢献できる人材の養成を目的としており、以下に示す能力を修得した者を主専修プログラム修了者とみなす。

(知識・理解)

1. 環境・法・経済に関する基礎的な知識を幅広く身につけている。
2. 文理融合に基づく環境学諸分野の研究手法と専門的な知識を修得している。

(思考・判断)

3. 環境と人間・社会のあり方について、相互の複雑な連関を踏まえて理解する能力を身につけている。
4. 環境学を始めとした専門的知識を活用し、環境問題の解決、「持続可能な共生社会」構築に向けた具体的な方策を総合的に思考・判断することができる。

(技能・表現)

5. 地域社会とその環境に関する調査・分析ができ、そこに潜む問題点やその解決法について、自らの見解・提言を論理的かつ的確に説明するスキルを身につけている。
6. 様々な集団の合意形成を図ることができる柔軟なコミュニケーション能力やプレゼンテーションのスキルを身につけている。

(関心・意欲)

7. 地球規模から身近な地域まで、多岐にわたる環境や環境問題に強い関心を持っている。
8. 環境学をはじめとする専門的視点を活かし、環境や地域の問題解決のために主体的・実践的に取り組む意欲を持っている。

(態度)

9. 中立公正な立場から高い倫理性を持って、専門分野を社会貢献に活かそうとする態度を身につけている。